

SSKU

お元気ですか?
イリアンソス
です。

2012

春



社会福祉法人イリアンソス
●のぞみの家
東久留米市下里2-7-18
042-473-9027
042-473-9036(F)
nozomi@iriansos.or.jp
●活動センターかなえ
東久留米市南沢2-20-51
042-451-0252
042-451-0262(F)
kanae@iriansos.or.jp
●なかまの家
東久留米市中央町2-1-47
042-472-7130
042-444-3722(F)
nakama@iriansos.or.jp
●生活寮「うみ」「そら」
東久留米市下里4-2-7
042-476-3400(F兼)
sora@iriansos.or.jp
●生活寮「にじ」「かぜ」
東久留米市下里5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp

理事長の散歩道

「退任の挨拶」

特集

「気持ちをお作品にのせて」

～作品展のようす～

連載 がんばれイリアンソス⑤

～地域との縁イリアンソスとの縁を大事に～

理事長の散歩道



理事長の散歩道 ⑫
「退任の挨拶」

社会福祉法人イリアンソス
前理事長 山田耕一郎

私がイリアンソスの理事長を拝命して以来、一番嬉しかったことは、永年の夢であった生活寮建設とその完成でした。

空と海

生活寮の名前は男子寮が「そら」、女子寮が「うみ」と名付けています。これを漢字で書けば空と海になります。空海といえば日本の歴史に名を残す名僧です。多くの業績と共に、書聖としての高名はあまりに有名です。

空海は774年に讃岐の国(香川県)に生まれ、835年62才で入定されました。入定の85年後に「弘法大師」の称号を賜りました。

弘法大師といえ、降雨会の修行の遺跡がある四国八十八箇所を巡拝するお遍路さんを思い出します。今は、バスのツアーでその行程は楽になりましたが、昔は祈願成就をかけた決死行でした。それだからこそ、「同行二人」と笠に書き、頭に頂いて旅をしたのです。我苦しくとも、弘法大師と共にありという意気込みです。

ふと、障害を持ち合わせた我が子との生活を振り返る時、この「同行二人」の言葉に打たれます。私一人では無いんだ、福祉の神様、

福祉の友人、福祉のころある人といつでも同行しているのだという支えです。私が長野大学で、福祉学科の学生とゼミを行っていた時、足の不自由な学生が、「私は確かに生活の不便さを感じますが、自分の障害を不幸だと思ったことはありません。」とかたつてくれたことはあります。今でも忘れることができません。障害があっても、楽しい仲間と「二人同行」、イリアンソスは幸せだと利用者の皆さんが感じてくださればありがたい事です。父のように大きい空の恩、母のように深い海の恩。生活寮が父と母の愛に包まれて、いつまでも暖かい、楽しい生活の場であつてほしいと祈ります。寮長としてスタート時より、生活寮を育ててくださった金野博志さん。東京都の職員を辞めて、イリアンソスに駆けつけてくださいました。私はかけがえのない人を得たことに深く感謝しています。

個性を奪わず適材を適所に

ところで、私の雑薄な知識でお伝えするよりも、興味のある方は「日本人のころの言葉一空海」(村上保寿・創元社)をご覧ください。そこには、天才空海の真実の言葉が満載され、解説されています。そして、第二章「生きる道を求める」の中に、次のような言葉が出ています。

A 個性を奪わず適材を適所に。
B すべては担う人間にかかっている。
A：空海に聞く、良工の材(良き工人が材木)を用うる、その木を屈せずして(木の曲直に従って無理することなく)家を構える(その家を作りあげる)。聖君の人に使う、その性(その人の性質)を奪わずして所(その人にあつた地位や仕事)得さしむ。

B：物の興廃は必ず人による。人の昇沈は定めて道にあり(必ずその学び方や生き方に関係する)。大海は衆流によつてもつて深きことを致し(大海は多くの流れが注がれてこそ深くなり)蘇迷は積塵を待つて(宇宙にある巨大な山は塵が積もり積もつて)、もつて高きことを成す(周囲の山々を超えるほどになる)私が体調を崩した為、常任理事として全面的に支えてくださった磯部光孝氏が理事長の重責をになつていくこととなりました。それに伴つて多田由美氏が常任理事的な働きをして磯部氏を支えることになりました。金野博志氏然りです。三人が力を合わせて、利用者みなさんと職員みなさんの下に心を置いて、イリアンソスの更なる発展に導いてくれることと確信しています。私の在任中は皆様に大変お世話になりました。心から感謝し御礼を申し上げます。有り難うございました。



▲「わたしたちの作品展」とうげいや書など個性溢れる作品の数々



▲「のぞみの家作品展と製作風景」ダイナミックに描きます

▼今回は各事業所でおこなっている作品展の様子を紹介します。年に2回、のぞみの家は「のぞみの家作品展」なかまの家・活動センターかなえは合同で、「わたしたちの作品展」という名で開催しています。場所は東久留米市役所向かいのイベントスペースを借りて3日間おこないます。年間の行事として定着してきていて来場者も年々増えてきています。

▼始まりは発表する場を作るところからでした。日々の創作活動だけで終わるのではなく、多くの人に作品を見ていただくことで、活動の理解や作品の素晴らしさを感じてほしいという思いがありました。発表の場があることは製作者自身の喜びにもつながっていきました。

▼個性あふれる作品から生まれる制作者の世界は広く限りなく大きいのです。

より多くの方々に作品とその過程、そして一人ひとりの笑顔を見ていただきたいとおもいます。

気持ちを作品にのせて、作品展のようす

のぞみの家
【のぞみの家作品展】

のぞみの家は年に2回作品展をおこなっています。「たんぼぼ班」「おひさま班」「チャレンジ班」の個性豊かな作品が並びます。その中でも今回は「おひさま班」の絵画を紹介します。絵を通して自分を表現することを大事に11年間、絵画の取り組みを続けています。

それぞれのスタイル

使う絵の具、道具は人それぞれ。ドロツとした感触の「指絵の具」を直接手につけ、手を大きく動かしながら描く人もいれば、指の間に筆を固定して描く人もいます。棒の先にスチールたわしをつけたものを持って、振りながら歩いて描く人もいます。道具を使う人は、色の混ざりにくいアクリル絵の具を使用しています。



音楽の好きな人は紙を貼る台や筆替わりの道具に鈴をつけ、音を鳴らしてリズムを楽しみながら描きます。9名のメンバーそれぞれの「自分らしさ」が絵に込められるよう、描く方法も様々です。



体験しながら描く

絵のテーマは、レクリエーションで行った「プール」や「旅行」「花火」など、実際に体験したことを中心に、その時の気持ちを表現します。先日、雪が降った時には、翌日みんなで雪合戦をして、そのあと雪をテーマにした絵を描きました。「冷たかった」「真っ白できれいだった」「雪合戦が楽しかった」など、それぞれが感じたことを1枚の紙にめいっぱい描きあわしました。楽しかった体験のあとは、いつも以上にやる気が湧きます。完成した絵はポストカードやノートなどの自主製品として販売もしています。

絵を通してみなさんの力強さ、生き生きとした姿を多くの人に感じてもらえたらと思います。



活動センターかなえ・なかまの家
【わたしたちの作品展】

活動センターかなえとなかまの家合同で年に1回作品展を開催しています。

日々の活動の中で、取り組んでいるとうげいや絵画を中心に展示しています。ご近所に作品展開催のチラシを配布したり、当日は、会場の受付を担当したり、みんなで力をあわせながら開催しています。

今回、展示した作品の中で「手芸」「さきおり」「とうげい」の取り組みについてみなさんの写真とともに紹介したいと思います。

手芸

今回はじめての取り組みです。毛糸で編んだり、かごをつくったりしています。「次は、帽子が作りみたい。」など、とても意欲的です。



一目一目丁寧に編んでいきます。



「出来上がりがたのしみ！」



「きれいな色でしょ。」



真剣です！
選ぶのは好きな青色の布が多いです。



すこしずつ織っています。
優しい色合いの作品ができあがります。

さきおり

布を裂くところから、1本1本、自分のペースで織ります。出来上がりは、その人らしい色合いのものに、カバンやクッションといった製品になります。

とうげい

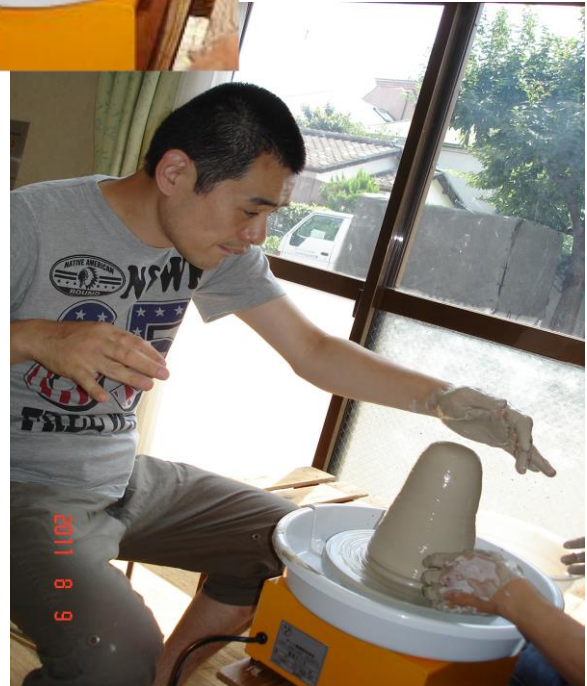
今年度からチャレンジしている「ろくろ」は手でこねた時とは違う感触を楽しむことができます。みんな、作品展に向けてカメラ目線も忘れるくらい夢中で取り組んでいます。



ツルツルして気持ちいいけど、手を放すタイミングが…。



形がどんどん変わっている。「なんで？」



くすぐったくてきもちわるいな。



力を入れたらほそくなってきた。



うん…指に力入れてら穴が開いて形が変わってきたぞ。



手のひらがくすぐった〜い。

がんばれ イリアンソス！シリーズ⑤

「地域との縁イリアンソスとの縁を大事に」

東村山市 恩多町 久保クリニック

医院長 久保秀樹



久保クリニックは、平成12年5月に東村山市恩多町1丁目に開設された、内科クリニックです。

私は特別養護老人ホーム「けんちの里」の嘱託医をやっていることもあり、生活寮「うみ」「そら」の横の細道はよく通っています。ここには、以前、自転車の組み立て工場がありました。閉鎖に伴い、平成16年に生活寮が開設されました。

当時、イリアンソスの山田理事長さんが開設の挨拶にいらっしゃいました。「地域で暮らす障害者のための寮を作っているが、近隣の住民の中には反対する人もいる。なんで反対するのか理解できない。」と熱く語り、地域の福祉への強い意志を感じました。「障害者の生活寮」というものがどのようなものなのか、市民には理解できておらず、漠然とした不安感が存在していたのだと思います。

「うみ」「そら」が開設されてからしばらくして、入所者が職員に付き添われて当院に来院するようになりました。ほとんどは、発熱、咳などの風邪症状であり、適切な処方ですぐに治療可能な軽症でした。自分の症状を説明できない人が多いのですが、付き添ってきた職員の方やご家族の方が「入所者の症状」、

「普段との違い」、「診療時の注意点(名前を呼んではならない。白衣が苦手など。)」を的確に説明してくれるので、診療は思いのほか容易です。今ではなかまの家、生活寮「にし」「かぜ」の方も来院されています。

また、昨年末には生活寮「うみ」「そら」「にし」「かぜ」の利用者にインフルエンザ・ワクチンを接種しに伺ったことがありました。若い職員の方々が総出で、笑顔で介助して下さったおかげで、ほとんどの入所者は安心して接種を受けてくれました。職員の方々の対応には、いつも感心しています。

さて、私は開業することになるまで、この恩多町、下里付近には来たこともありませんでした。この地で開業することになったのも、ある人からの紹介がきっかけであり、これもひとつの「縁」だと思っています。そして、クリニックの向かい側に生活寮「うみ」「そら」が出来たこと、その入所者の診察をさせていただくことになったのもまた「縁」なのでしょう。

これからもイリアンソスの皆さんとの「縁」を大切にしていきたいと思えます。そしてイリアンソスと地域の「縁」がより深いものになっていくことを希望して止みません。

トピック (Topic)

理事長就任の挨拶

1月16日付で理事長になりました磯部です。これまで、のぞみ家の施設長及び理事として頑張ってきました。石原先生、山田先生の後を引き継ぐことになり身の引き締まる思いです。

これまで同様みなさまのお力をお借りして、イリアンソスを支え障害福祉充実を計ってきたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。

(磯部光孝)



法人行事

くろてん

『リサイクル久留店』

のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売しています。

◎日程：6月7日(木)21日(木)

7月5日(木)19日(木)

◎場所：滝山団地センター前広場

※雨天中止、また、天候によっては中止・開催時間短縮の場合もあります。

『のぞみの家作品展』

◎日程：2012年7月2日(月)～5日(木)

◎時間：10:00～17:00(5日は16:00まで)

◎場所：スペース105(東久留米市役所向かい)

ご寄付をいただきました。

(3月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様
島崎 宣治様
河角 稔様
餅田 日出男様
ありがとうございます。

表紙の写真

『生活寮 誕生日メニュー』

生活寮の夕食はいつも食材配達業者のメニューですが、入居者さんの誕生日には好きなメニューをみんなで食べてお祝いをしています。誕生日が近づくと『何が食べたいですか?』と会話も盛り上がります。デザートに年齢の数字のろうそくをたてて、「おめでとう!」の声かけで吹き消します。

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

安達 聡、池田苗生子、磯部光孝、金野博志、多田由美、矢島正樹、吉田遊佑



定価 100円

編集後記

生活寮「そら」の物ほし台の下に、小さなプランターがいくつも
あります。そこにニラを植えています。夏の暑さに負けずスクスク
育ち、ささやかですが寮の食卓をにぎわせてくれました。秋が過ぎ
て、冬の寒さが訪れると枯れはてて、土だけが残ったように見えま
したが、春の訪れと共に新芽をのばしてきました。三年前の春に植
えてから、今年の春も順調に新芽を成長させています。

気がめいるようなニラが多いですが、ニラの生命力を見習つ
て日々の生活を送りたいと思います。

生活寮「そら」

安達聡